

親子で楽しむ人気の野外体験

健康の森で「ひみつきち」作りにチャレンジ

「森にひみつきちを作ろう」は6月5日、いちのせき健康の森で行われ、親子7組22人がのこぎりや電気ドライバーなどを駆使して竹の骨組みや木の枝などで手作りの小屋を組み立てました。親子で参加した西上尚子さん、陽くん、こはるちゃんは「電動ドライバーでねじ止めをしたり、のこぎりで木を切ったりしました。貴重な体験をすることができてよかったです」と話していました。

いちのせき健康の森が主催する同イベントは、火おこしや焼き芋作りなどさまざまな野外体験ができる人気の催し。今回で5回目を数えます。



元スポーツ選手から仲間の大切さを学ぶ  
南小学校で「夢の教室」開催

「夢の教室」は6月7日と8日の両日、南小学校で行われ、同小5年生88人が元マラソン選手の前原裕美子さんや元プロサッカー選手の安永聡太郎さんから仲間と協力することの大切さを学びました。原さんは自身の競技人生を振り返り「夢をかなえるためには努力と仲間が大事」と熱弁。「心が変われば行動が、行動が変われば生活が、生活が変われば人生が変わる」と力強く語りました。中川大基君は「皆が協力すれば何でもできるということを教わりました」と目を輝かせていました。

同事業は日本サッカー協会（JFA）が19年から全国で実施。本年度は市内7校で開催が予定されています。

地元に伝わる民話・伝説を披露

武家住宅で「語り部」の昔話を堪能する

いわいの里ガイドの会（齋藤三郎会長）が主催する「語り部の会」は6月10日、田村町の旧沼田家武家住宅で行われ、地元の住民や観光客など約50人が人情味あふれる口調で語られる昔話に聞き入っていました。

紹介されたのは、地名にまつわる伝説や心温まる民話など13のエピソード。9人の語り手が、柔らかな表情と独特の言い回しで披露しました。初めて同イベントに参加した舞川の佐藤勇さん（83）は「子供の頃、祖父が語ってくれた話を聞いたかった」と話してくれました。同イベントは、昔話で地域の魅力を伝えるために実施。年2回、同会場で開催されています。



産地の再生を目指す取り組み  
せんまや夜市で原木シイタケを試食販売

「甦れ！いちのせきの原木しいたけ」試食販売会は6月11日、せんまや夜市と併せて行われ、施設栽培した原木シイタケの試食・販売に多くの人が集まりました。

同試食販売会は、千厩地域しいたけ生産組合（佐藤繁組合長、10人）が中心となって開催。生の原木シイタケと、大きくカットしたシイタケを甘辛く煮込んだ魯肉飯（煮込み豚肉かけご飯）はあっという間に完売しました。蒸し焼きにしたシイタケを試食した人たちは「口の中に香りが広がる」「（販売を）待っていた。おいしい」と喜びの声が上がりました。

森が育む豊かな環境と人々の願い

ひこばえの森に全国から1500人が参加

気仙沼市唐桑町の牡蠣の森を募う会（畠山重篤代表）と室根町第12区自治会（三浦幹夫会長）が主催する「第28回森は海の恋人植樹祭」は6月5日、室根町矢越地内で開かれ、全国から訪れた約1500人が森と海の豊かな環境を作ることを願いながら植樹を行いました。

今年の植樹はコナラ、カツラやミズキなど約1500本。参加者は、大漁旗がなびく矢越山中腹の「ひこばえの森」で、心を込めて木の苗を植えていました。昨年に引き続き参加した三浦楓泰君（室根西小6年）は「大きく育つように願い、丁寧に植えました」と同級生と共に作業をしていました。



マイナンバーカードを利用したサービス開始  
コンビニで住民票の写しなどが取得可能に

コンビニエンスストアで住民票の写しなどが取得できるサービスの開始を祝うセレモニーは6月9日、セブン-イレブン-関山目店で行われ、市関係者ら10人が参加しました。テープカットに続き、勝部修市長が店内の専用端末（マルチコピー機）で自身の住民票の写しを取得。サービスの利便性をアピールしました。

取得できる証明書は、印鑑登録証明書、所得課税扶養証明書や戸籍の全部事項証明書など5種類。手続きには、利用者証明用電子証明書が記録されたマイナンバーカードが必要です。土日祝日や一部の時間帯を除き、全国のセブン-イレブン、ローソン、ファミリーマート、サークルKサンクスで取り扱います。

芦東山と石川啄木を「渋民」でつなぐ特別展

偉人の教育方法を学ぶ講演会を開催

芦東山記念館の春季特別展「南の渋民・北の渋民～二つの渋民と先人教育」は4月23日から6月12日まで同館で行われ、最終日となる12日は石川啄木記念館の学芸員による講演会「北の渋民～石川啄木についての小学校・記念館の取り組み」が開かれました。地元住民など約20人が郷土の偉人を小学校などで教材にする「先人教育」の手法について学びました。

芦東山と石川啄木は、育った古里の地名が「渋民」。どちらも波瀾万丈の人生を送った郷土の偉人です。佐々木裕貴学芸員は「小さいころから偉人の作品に触れて彼らを身近に感じたり、親しんだりすることが大切」と先人教育の重要性を語りました。



昔ながらの田植えと農村景観を楽しむ  
本寺地区で「お田植え体験交流会」が開催

本寺地区地域づくり推進協議会（佐藤勲会長）が主催する「骨寺村荘園お田植え体験交流会」は5月29日、本寺地区の小区画水田で行われ、全国から集まった荘園のオーナー、岩手大の学生や地元の小中学生など200人が昔ながらの田植えと農村景観を楽しみました。初めて同イベントに参加した岩手大2年の阿部千乃さんは「農家の人から苗の植え方のコツを教わってうまくできました。稲刈りや米納めにも挑戦してみたいです」と話してくれました。

今回は同イベントに合わせて撮影会も行われ、20人のカメラマンが田植えの様子や緑美しい風景を写真に収めていました。